

運動会の日

唐丹希望基金代表 高館 千枝子



5月18日(土)、唐丹小中学校運動会。朝、6時45分 唐丹に向かって出発。

運転中、運動会に行くのも今年で最後になるかもしれないという、一抹の寂しさがこみ上げてきて、今までとは全く異なる生徒たちへの期待に包まれました。「2020年3月まで、無事、役目を果たせるのだろうか？」と、あの時からこのことばかり考えて過ごしてきたので、2時間余りの道のりは、これまでの様々を振り返る時間となりました。

唐丹希望基金は“2011年4月に小学校に入学した子供たちが中学校を卒業するまで支援”を第一目標にして日々奮闘してきました。今年4月、あの年に入学した子供たちが中学3年生になり、来年3月には卒業を迎え、唐丹基金の活動も最後の年を迎えました。先ず、ここまで来られた事への“感謝と安堵感”9年で育まれた“友情と信頼の絆”は唐丹基金の財産となりました。

遠野に差し掛かった頃、“これまでの9年の歩み”を書き留めようという心境に陥りました。これは予期せぬ“心の望み”でした。皆様にも「唐丹希望基金に繋がる思い」の投稿をお願いしていますが、私自身の9年の唐丹希望基金「あの日、あの時」を振り返る事にします。6月から来年3月まで、10回に分けて掲載します。皆様の投稿もお待ちしています。(締め切り2020年3月)

唐丹希望基金「あの日 あの時」

【1】 2011年6月16日の事（訪問2回目）



わずかな募金と全国から届いた文具類を車に積み、初めて唐丹を訪問したのは2011年4月23日（雨天）の入学式でした。震災直後の唐丹小学校は校舎が全壊したので隣町の平田小学校を間借りしての学校生活、唐丹中学校は体育館での生活が余儀なくされました。

「毎月、支援金を届ける」という当初の計画は、募金が思うように集まらず、2回目に訪問したのは6月16日でした。震災から3ヶ月経った町のあちこちに、震災の痛手が生々しく残っていて、どんな顔をして訪問すれば良いのかと複雑な気持ちを隠し切れず、口数も少な気でした。わずかばかりの支援金を届けることが、正しい行動なのだろうか？と、重い気持ちを抱えて訪問したことが思い出されます。東京の支援者 高橋則子さん、本木英子さんの3人で訪問しました。

午前、唐丹小学校を訪問。青笹校長から、子供たちの学校生活の様子を伺った後、1年生の教室に案内して頂きました。教室いっぱい広がる“屈託のない子供たちの笑顔”は、暗く沈んだ被災地の灯でしたし、私の沈んだ心も救ってくれました。私自身の子育ては、子供の持つ見えない力を感じ取る余裕もなく、日々の生活に追われてばかりでしたので、こんなにも、子供の存在が社会の希望になるものなのかと、改めて気づかされました。子供たちには“被災地の光”そして“社会の希望”として、健やかに元気に育ててほしいと心から願いました。私も、その力になりたいと思って「今こそ、人として成すべき事をしなければ…」と決心する事が出来ました。

午後は唐丹中学校を訪問。小さなプレハブの仮設校長室で、藤館校長と一人の若い男性が待っていました。この男性は、東日本大震災の取材の為、毎日新聞本社から釜石に派遣された新聞記者でした。私は、彼の取材を受け“唐丹希望基金の声”が全国に発信され、多くの支援者と出会う事が出来ました。この後も幾つもの“幸運な出会い”に導かれ、今日に至っています。

（ EEC 通信 15 号：http://www10.plala.or.jp/yasnoli/eec/report_014.pdf ）

「唐丹小・中学校運動会」に参加して

伊藤 富美子（群馬県高崎市）

令和元年5月18日。

唐丹の空は五月晴れ！海風に吹かれた大漁旗が、校庭にひるがえる。「唐丹小中学校運動会」です。

震災後、仮設校舎を7年経て、体育館、小・中の校舎が完成。スロープには花や木が植えられて、運動場、駐車場、門扉、全てが「復興した」運動会。

スロープのひな段には、町中の人々が思い思いに座り、運動場を見おろしています。8時30分、チャイムが鳴って、開会です。小学生44名、中学生32名が整列して開会の言葉。

9時から紅白に分かれて、応援合戦で競技が始まりました。

工夫を凝らした22の競技、演目には、「トウニタイフ〜ン（棒の両端を二人で持って走る）」「TONI 韋駄天競争物語（借り物競争）」かわいらしい小1年生の「徒競走」などありました。面白かったのは「応援合戦」1、声の大きさ2、アピール文の優劣などを競いますが、3人の審査官は2人の小中の校長先生と3人目は、なんと、町のおまわりさん！3人が赤と白の旗を挙げて、その数で決まり！

圧巻は「唐中ソーラン」でした。背中に「唐中」と白抜きした黒の長ハッピー（ベンチコート）を着て、頭に各々紅白のハチマキを結び、中学生全員がソーラン節にのって踊ったのです。素早く、柔らかい体の動き、手と足の先まで神経が行き渡っていた若人の美しい躍動、思わず胸が熱くなり目が潤む、素晴らしい姿でした。

地域の人々が参加する「交流玉入れ」「交通安全リレー」（後向きに走る送走）、「地域対抗綱引き」、運動会のハイライト「全校リレー」が小・中別に、拍手喝采を受けて、盛り上がりました。

入学したばかりの小学1年生が9年目には中学3年生になる！中3のお兄さん、お姉さんの肩にようやく届く身長の小1年生。その間の成長ぶりを目の当たりにして、大切な児童を預かり、心をこめて、この日の為に案を作り、練習を重ねてご指導下さった教職員の皆様、そして運動会に町中の人々が協力して競技、道具調達・運営に（司会、道具の配置など）協力している姿を拝見して、これが「復興の力」だと思いました。

私もこの場に参加できたことを「おめでとう！有難うございました」と申し上げます。来場した卒業生の皆さまにもありがとう！

心から楽しかった一日でした。

